

2018 年度 事業報告 (案)

施設名                     グループホームきぬた                    

1 利用状況

事業種別： 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 利用者数 5人

(1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人
区分3以下	0人	計		5人	

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4人
計		5人	0人	0人	0人	5人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	0人
20代	0人	50代	4人
30代	1人	60代以上	0人
計		5人	

男性	5人
女性	0人
計	5人

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

世田谷区グループホーム事業補助、及び同運営費補助に基づく、法外のグループホーム事業である。2003年4月に開設し、現在に至る。

「利用者一人一人が安心して自分らしく過ごせる自分の居場所であること、将来の夢を語れる場であること」を運営の基本理念とし、障害者の在宅支援関係機関と連携し、個々に、外部の通所施設を利用し、介護は外部居宅介護及び移動支援が入っている。夜間(20~翌9時)は、事業所スタッフが夜勤体制で対応にあたる。土日休日は、グループホーム内に留まることなく、自由に外出、外泊できる支援体制を整えている。

医療支援については、成城リハケア病院と施設入居時医学総合管理の契約を個々に結び、定期的な訪問診療のほか、急病の時の夜間休日を問わない往診ができる体制になっている。

その他、訪問看護、訪問リハ、訪問マッサージ等の訪問系の支援も継続的に行われている。

(2) 地域交流

- 法人格砧町自治会の一理事としてスタッフが参加。クリスマスパトロールや合同防災訓練にも入居者も含めて参加している。
- 2019年4月開設の「うめとぴあ」(世田谷区保健福祉総合拠点施設)の検討委員会に参加したが、会には1回のみのお出席で終わってしまった。

### (3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 入居者の普段の様子を中心に報告することとし、利用者家族会を4回行った。
- ・ 個々の入居者の全体像を共有するため、関わる通所先や医療機関などとの連絡を意識的に密に情報発信に務めた。
- ・ チームケアのために、当ホーム入居者に関わる全ヘルパー事業所によるミーティングを試行的に開催した。今後も定期的に行うこととした。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ ボランティア受け入れ  
9 月：うどん打ち  
12 月：忘年会 元ムエタイ日本チャンピオン  
2 月：節分
- ・ 実習生の依頼はなく、関係教育機関への登録などは現在のところ検討していない。
- ・ 父母の会関係の団体、区内他施設からの見学受入れを行った。
- ・ ボランティアの受け入れ、確保には課題を残している。

### (5) 危機管理

- ・ 従来3日分であった防災備蓄を7日分に拡大した。
- ・ 「ヒヤリハット」の書式を整えた。2018年度19件の報告実績があった。
- ・ 夜間火災、地震想定防災訓練を3回行った。
- ・ 2月に管理者が体調を崩して4週間休む状況があった。スタッフの連携、介助者の支え、法人のバックアップでこの時期の運営に滞りがなかったが、こういった事態への対応をあらかじめ想定しておく必要が課題として浮かび上がった。

### (6) 職員研修の実施

- ・ 「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」の第15回全国大会（2018年7月14日・15日 於愛知県大府市）に2名の職員が参加。
- ・ 日本障害者協議会の連続講座に延べ3名が参加。
- ・ 国際福祉機器機展に2名が参加。
- ・ そのほか研修や交流イベントの案内を、職員、入居者、ヘルパーに紹介している。

### (7) その他（苦情・事故等）

- ・ 2017年度の運営で、当時の管理者が入居者宛の手当などの郵便物を本人に渡さずに放置し、手当支給が停止されていたことが4月に発覚した。すぐに遡及を含む回復措置をとり、5月中旬に正常化した。この経過は世田谷区に事故報告し、2017年度の運営の状況や改善方策について区との打ち合わせを繰り返した。
- ・ 10月1日未明、大型台風の暴風で、隣家の雨戸が当ホーム入居者居室窓に直撃して窓ガラスを破損した。在館者にけがなどなし。即日ガラス修理。費用は隣家が支弁。世田谷区に事故報告をした。
- ・ 10月18日に玉堤通所バスの停車について、砧4丁目住人の匿名の方が世田谷区に「めいわくだ」と苦情。同日、区、通所先と相談し、翌日から停車位置の変更をした。その後この件での苦情はなく経過している。

### 3 重点課題と取り組み・成果

2018年度は以下の点を重点課題として取り組んだ。

#### ①建物の安全

→ 2017年度に行えなかった建物診断を実施した。法規・図面通りの施工がされていない可能性を指摘されたため、2019年度早々に詳細調査をし、状況を確認する作業中である。

#### ②実践の土台作り

→ 入居者台帳、ケース記録がないという不正常的な状態を4月に改めた。新たに台帳を起し、ケース記録を毎日の変化がわかるように記録している。業務日誌も大幅に改善し、業務の積みかさね状況を確認できるようにした。

#### ③預り金等の改善

→ 預り金、預かり品台帳を個々の入居者について作成した。

#### ④監査 外部の目の導入

→ 10月に法人監事による内部監査を行った。現金台帳の扱い、金庫の鍵の管理、法人内での職員の乗り入れの必要の指摘を受けて改善方途をとった。

#### ⑤スタッフの確保

→ 夜勤スタッフは2018年度中、退職が延べ2人、採用が延べ2人であった。力のあるスタッフの加入で、運営が強化された。調理職員は退職も採用もなく経過した。

#### ⑥チームケアの明確化

→ 「チームケア」の方向を確認して、スタッフ会議、ヘルパー事業所ミーティングを行った。これらの中で、管理者とスタッフの意思疎通や、グループホームとしての改善課題や存在の意義の確認を繰り返している。また、グループホームの運営について、入居者からの不満足意見の聞き取り、介助者からの意見や提案の聞き取りのためのアンケートを11月から12月にかけて行った。スタッフへの厳しい評価や、積極的な提案などが回答されてスタッフで共有した。この取り組みで「みんなで運営していく」機運が形成されてきた。ほぼ30年のブランクのある点字に再度取り組みたいという入居者、グループホームで空いた時間に描画制作を始めた入居者など、自分のやりたいことを見つけて取り組みはじめる動きがある。また、従来はあまり関わりを作らなかった入居者同士で、週末の買い物と一緒に出かけなどの変化も生まれている。入居者自身の思いを支える介助者の工夫や働きかけ、実践の共有がこのような機運を作っていると考えている。